

新任部長・副部長紹介

■新任部長



4月着任

事務部長

いけがみ せいし

池上 栄志

後期高齢者人口の増加により、今後も複数疾患や介護ニーズを抱えた方が多くなると見込まれます。環境変化に対応できるよう、地域で幅広く診療を担っていただくかかりつけ医の先生方に協力いただきながら、急性期医療を担う当院が連携・役割分担し医療を提供していくことが必要となり、求められる機能を果たせるよう取り組んでまいります。

■新任部長



4月昇任

第2小児科部長

ひらの さとこ

平野 聡子

免許取得年／平成8年

■新任副部長



4月着任

耳鼻咽喉科部副部長

にのみや たかひろ

二之宮 貴裕

免許取得年／平成20年

行事予定

令和7年度 地域医療連携の会 役員会・懇談会

日時／令和7年7月30日(水)18:45～役員会、19:15～懇談会

会場／ザ・グランユアーズフクイ

第11回 消化器カンファレンス

日時／令和7年8月23日(土)15:30～

会場／コートヤード・バイ・マリオット福井

地域医療連携課の紹介

令和7年4月よりメンバーが変更となりました。今後とも、先生方のご意見、ご要望を真摯に伺いながら、地域医療連携の推進に努めてまいります。



- | | | | |
|----------|--------|------|-------|
| ① 看護師長 | 福田 清美 | ④ 主事 | 相模 千春 |
| ② 連携推進係長 | 伊澤 理恵 | ⑤ 主事 | 加藤 弓月 |
| ③ 連携企画係長 | 栢谷 由佳理 | | |

地域医療連携課 受付時間変更のお知らせ

令和7年4月1日(火)より、受付時間を下記のとおり変更させていただきます。

患者さんの診療および検査の予約や緊急紹介の調整など、より利便性の高い地域医療連携課を目指してまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【変更前】	平 日 8:00～18:30
↓	土曜日 8:30～13:30
【変更後】	平 日 8:15～18:30
	土曜日 8:30～12:30

開催報告

地域がん診療研修会

令和7年2月14日(水)、福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター副センター長、当院腫瘍内科非常勤医師 今村善宣先生より「抗がん薬治療による有害マネジメント～苦痛を抱える患者さんへの対応～」について話題提供いただきました。

4つの視点からご講演いただき、中でも「発熱性好中球減少症(FN)の予防と治療」では、聴講者から「患者さんの安全を守るために、正しい知識をもって、必要なタイミングで患者さんが受診できるよう指導していきたい。」との感想が寄せられました。

化学療法に伴うFNの致死率は無治療の場合、50%とされており、がん患者の発熱では、FNをまず考慮することをご教示いただき、がん患者さんに関わるすべての医師が改めて再認識する必要があると、考えさせられる研修会となりました。

MASCCスコア

●症状の程度	
症状なし／軽症／中等度／重症	5/5/3/3点
●血圧低下なし	5点
●慢性閉塞性肺疾患なし	4点
●固形癌／真菌感染の既往なし	4点
●脱水なし	3点
●外来患者	3点
●60歳未満	2点

合計 21点以上 合併症18% 死亡率3%
 15-20点 合併症40% 死亡率14%
 14点以下 合併症79% 死亡率36%

入院治療を考慮するポイント

- 発熱時すでに入院していた
- Grade3-4の粘膜障害を合併している
- 重大な合併症が存在する
- アテムズマブ(マブキャンパス®)を使用中
- 好中球<100/μLが予想される
- 好中球減少の7日以上の持続が予想される
- 臓器障害あり
- 原病である悪性腫瘍のコントロール不良
- 他の感染症を合併している

独断、過力などの社会的リスクも考慮する。

ESCA Guidelines 2012

参考：FNの患者を同定するためのスコア
(当日の講演会資料より)



当日の資料

Partner

福井赤十字病院連携通信〈パートナー〉

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.084

令和7年4月発行



1925年頃と現在の当院外観

創立100周年を迎えて

福井赤十字病院は2025年(令和7年)4月、創立100周年を迎えることができました。連携医療機関の皆様のお支えがあったことと厚くお礼を申し上げます。

当院は福井県の公的病院の中では最も長い歴史を誇る病院です。

明治初頭、福井市には藩政時代より引き継がれた福井医学校があり、これの附属病院が一般診療を行っていましたが、1886年(明治19年)の医学校廃止後、県立福井病院として県の管理下に置かれていた同病院を、戦時傷病兵や貧困患者の救護、救護員養成等日本赤十字社としての事業を推進するため、県内各界からの要望に後押しされる形で日本赤十字社に移管することが1918年(大正7年)に決定されました。

日赤本社及び福井県の補助並びに県民有志の寄付をもって現在地に土地を取得し1923年(大正12年)12月に着工、1925年(大正14年)3月に完成し、4月1日に日本赤十字社福井支部病院として開院しました。1943年(昭和18年)、福井赤十字病院と改称されています。以降地域の基幹病院として医療、福祉、保健、看護師の養成等を担ってきた流れを継承し現在に至っています。

私たちは、今後激変するであろう医療情勢に柔軟に対応して参ります。一層のご支援をお願いし、ご挨拶いたします。



院長 小松 和人

+ 福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間／平日 8:15～18:30、土曜 8:30～12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)



<https://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第84号発行 令和7年4月 福井赤十字病院



結ぶきずな 地域とともに

脳血管内治療のさらなる進化 術後に抗血小板薬が不要となる 脳動脈瘤用治療デバイス “W-EB”

昨年10月、福井県内では初めて“WovenEndoBridge (W-EB)”を用いた治療を当院で実施しました。実施医制限のあるデバイスのため、2025年4月現在も県下では当院のみ使用可能です。では、W-EBとは？脳血管内治療の現状と合わせてご報告いたします。

脳動脈瘤の治療は、これまで開頭によるクリッピング手術が主流でしたが、米国では2004年、日本では2019年に脳血管内治療が開頭術の件数を逆転し、現在もその差は開き続けています。これは脳血管内治療の低侵襲性に加え、カテーテルやインプラントなどデバイスの進歩によりその治療成績が向上してきたからです。

脳血管内治療では、コイル（非常に柔らかい金属素線）を瘤内に留置し、動脈瘤を内部から閉塞させます。現在も主流となる治療法ですが、脳動脈瘤の根元が広い“wide-neck型動脈瘤”には、ステントを補助デバイスとして使う必要があります。しかし、ステントは抗血小板薬の長期または永久内服が必要で、また破裂症例には使用できません。そこで、“wide-neck型動脈瘤”への治療用デバイスとして開発されたのがW-EB(TERUMO)（図1）です。W-EBは、極細金属素線で編み込まれた網目を有する袋状の形状で、



図1



図2

カテーテルから動脈瘤内に直接挿入し血液の流入を遮断します（図2）。動脈瘤の開口部を滑らかな面で速やかに塞ぐため、術後の抗血小板薬は原則不要で、破裂・未破裂症例のいずれにも使用が可能です。これまで当院でW-EB治療を実施した2例の未破裂脳動脈瘤の患者さんは、いずれも治療翌日のMRIでは脳動脈瘤は閉塞、術後2-3日で退院しています。術後速やかに抗血小板薬も終了し、現在も合併症なく経過しています。

デバイスの進化は脳血管内治療の進歩そのものです。脳血管内用デバイス開発は世界中で行われているため、日進月歩が顕著な分野であり、患者さんへより良い最新の治療をお届けできるように、当科も日々進歩していきたいと考えています。



脳神経外科副部長
佐々木 夏一

情報通信技術を利用して 地域医療を救いたい！



副院長
脳神経センター長兼脳神経外科部長
西村 真樹

今回、福井赤十字病院と丹南地域の織田病院・丹南病院・木村病院とICTを使用した脳卒中診療の連携を始めます。

脳卒中は早期に診断することが重要で、そのなかでも血管が詰まって脳が壊死してしまう脳梗塞については1分でも早い治療が必要です。ただし脳卒中はさまざまな症状を引き起こし、画像がなければ脳梗塞と出血との区別をすることは困難です。

従来は、脳梗塞が疑われても医師不足地域ではいつでも急性期治療に対応できる医師がいるわけではないため、患者さんを搬送し、搬送先の病院は到着してから画像を確認して治療を始めることになり、治療開始が遅れてしまうことがありました。

そこで、リアルタイムでCT画像などの患者データを共有できる医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」を活用することで、病院同士が画像を含めた情報を共有することが可能となります。Joinは国内ではじめて保険診療の適用が認められた医療機器プログラムで、すでにさまざま

な地域で連携のツールとして使用されています。

実際には連携病院と福井赤十字病院の担当者が共通のグループを作り、外来や救急に来られた患者さんの状態や画像をJoinで共有することができ、搬送の状態が把握しやすくなります。そして、Join連携により必要な場合にtPAといわれる血栓溶解薬を赤十字病院の脳卒中専門医と相談の上で決定、投与しながら搬送することができるようになります（Drip & Shipとよばれます）。

これによるメリットは、血栓溶解薬を早く投与でき、治療までの時間が短縮され、患者の救命率によい効果をもたらすことにあります。また同時に福井赤十字病院側も血管内治療などに向けて必要な人員を事前に準備することができます。脳梗塞だけでなく脳出血やくも膜下出血についても情報を共有することで、より搬送中の適切な管理や受け入れ側の準備をすることができます。

今後は、これらの連携をほかの地域や同様に緊急性が必要となる疾患などにも広げていければと考えています。



画像提供：株式会社アルム